

《看護ワンテーマ BOOK》 がん専任栄養士が患者さんの声を聞いて つくった 73 の食事レシピ

川口美喜子, 青山広美 著

＜書評者＞ 柏谷優子 (東京医科大学病院緩和ケア支援室・看護師長/
緩和ケア認定看護師)

本書には、がん患者専任として
かかわる栄養士が実際に患者さん
に提供してきた食事レシピと、そ
のかかわりのコツがまとめられて
います。

がんを抱えて生きる多くの方
は、本書に紹介されているような
食にまつわる悩みやつらさを体験
しているでしょうし、近くで支え
るご家族もまた同じだと思いま
す。そんな方々に、本書はきっと
参考になり、がんを抱えて生きて
いくうえで頼もしい味方になって
くれるでしょう。そして同じよう
に、がん患者さんとそのご家族を
支援する医療者にとっても、心強
い味方になってくれると思いま
す。

すべてのレシピにはカラー写真
が添えられ、患者さんとの物語が
レシピ誕生の story として紹介さ
れています。患者さんにしっかりと
向き合って紡いだ物語から生ま
れたレシピには、「これは使える
な!」と思わせる説得力がありま
す。

レシピそのものの活用という点
でもそうですが、本書が示す患
者・家族との向き合い方には、医
療者として学ぶところが多々あり

ます。がん医療は臓器・疾患別に
治療ガイドラインが定められ、症
状緩和においても標準対応策が確
立しつつある昨今ですが、多くの
医療者はそれだけではがん患者の
ケアとして十分でないことを実感
しているはずです。

質の高い医療・ケアを提供しよ
うと考えたときには、根拠に基づ
く医療・ケア、すなわち EBM
(evidence based medicine) の側面
からだけではなく、患者固有の物
語を聴く NBM (narrative based
medicine) の側面からも患者にア
プローチしていくことが必要で
す。本書で示された栄養士さんた
ちの取り組みは、まさに患者固有
の物語を聴くことであり、問題解
決思考を基盤にしてさらに踏み込
んだ、関係志向のアプローチの実
践だと感じました。

関係志向のアプローチとは、徹
底して患者の個性に沿うことでそ
のニーズを感じ取り、援助の手掛
かりを得ようとするかかわりで
す。食の嗜好が個に帰属するもの
であるだけに、がん患者の食にま
つわる課題とその解決は一般化で
きないものがほとんどだと思われ
ます。その意味では、本書におけ

る栄養士さんたちの取り組みが関
係志向のアプローチとなったの
は、当然の流れによるものなのか
もしれません。

豊かなコミュニケーションスキ
ルを駆使して解決策を見いだすま
での手間と時間を惜しまない姿勢
には、深い愛情と専門家としての
信念を感じました。そしてこうし
たかかわりから、病院給食の中で
個別対応ができるような体制を確
立できる組織にも敬服しました。

この本に学ぶべきものは、目の
前にいる 1 人の患者さん（ご家
族）を大切に作る姿勢です。その
一端を紹介してくれたのが 73 の
レシピであり、添えられた story
なのだと理解しました。感心する
ところしきりで思いに任せた評を
書きましたが、本書には利便性を
考えた工夫がほかにもいろいろと
されています。熱量や栄養価の表
示はもちろん、「こんな方に」と
工夫された見出しなどのほか、巻
末には EBM の視点も加えた原因
別、要望に合わせたレシピづくり
のヒントなどもまとめられていま
す。

単なる食事レシピ本ではなく、
患者さん（ご家族）が今を生きる
ことを支えるための姿勢を学ぶ、
その手がかりとして本書を参考に
したいと感じました。

●B5 変 頁 128 2011 年
定価 1,890 円
(本体 1,800 円 + 税 5%)
[ISBN978-4-260-01477-9]
医学書院 刊